

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第105回）に係る面談

2. 日時：令和5年2月7日（火）14:00～16:10

3. 場所：原子力規制庁18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

長官官房

森下審議官

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、大辻室長補佐、石井係長、高橋係員

正岡企画調査官、塩唐松審査係長、小西係長（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所（テレビ会議システムによる出席）

小林所長

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 6名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 10名（テレビ会議システムによる出席）

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

池上執行役員、加藤執行役員、中村執行役員

5. 要旨

- 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」）という。）及び原子力損害賠償・廃炉等支援機構（以下「NDF」という。）に対して、次回（第105回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題とする予定である中期的リスクの低減目標マップの改定案について説明し、検討会当日に出席者から意見を聞く旨伝えた。
- NDF から、NDF が検討している水処理廃棄物等に係る対策等について、次回検討会において説明する旨の回答があった。
- また原子力規制庁は、東京電力から、次回検討会の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受け、内容についての確認を行った。
 - ✓ 汚染水対策の現況と今後について
 - ✓ 長期的な視点でのPCV閉じ込め強化の方針について
 - ✓ 1/3号機原子炉格納容器の漏洩箇所 の推定（追加の検討結果）
 - ✓ 1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応について
- 原子力規制庁は上記の内容を確認するとともに、以下のとおりにコメントを行った。
【長期的な視点でのPCV閉じ込め強化の方針について】
 - PCV閉じ込め機能の強化に関して、原子力規制委員会から6月に指摘した負圧管

理への移行も含め、東京電力における検討内容を示すとともに東京電力としての見解を資料の中で明示すること。

- PCV 負圧化に伴うリスクとしてどのようなことが考えられるのか整理し具体的に説明すること。

【1号機 RCW 熱交換器入り口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応について】

- 滞留ガスのページ（窒素封入）について、配管のどこからどういう作業をしているのか、わかるような図を示すこと。
- 滞留ガスのページ作業における水素濃度等の測定結果については、酸素、水素の分圧比もわかるように示すこと。
- 東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 汚染水対策の現況と今後について
- 長期的な視点での PCV 閉じ込め強化の方針について（案）
- 1 / 3 号機原子炉格納容器の漏洩箇所の推定（追加の検討結果）
- 1号機 RCW 熱交換器入口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応について（案）
- ALPS 処理水の海洋放出に係る運用体制の変更及び測定・評価対象核種の選定【概要】（案）
- 多核種除去設備等処理水希釈放出設備及び関連施設等の設置工事の進捗状況について
- 福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2022年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表